

修士 (2020 年度)

# 美容整形を目的とする訪日中国人に関する考察 ——インタビュー内容分析と中国オンライン空間上の調査を中心に——

黄 聡

## 1. 研究目的と背景

本研究は、中国人の来日整形行為と中国のインターネットで流れている日本の美容整形に関する情報に着眼し、それぞれの特徴と両者の関係性を明らかにすることを目的とする。

まず、日本の整形が中国で流行したことを、研究背景として取り上げた。中国における日本文化の流通を振り返ると、日本文化はすでに一種のサブカルチャーとして、一部の中国人に受け入れられている。特に中国のインターネットで、日本の美容整形に関する議論が多くなされており、整形に熱中する人に限らず、一般人も日本の整形技術や美意識に注目している。このような背景は、中国本土における整形産業の発展と密接に関係している。中国大陆の美容整形市場は急速な発展を遂げ、世界三大医療美容市場に進化した (ISAPA 2018)。中国美容産業は大きな潜在成長空間を保有しており、この中から海外に流出した割合も増えている。一方、中華系の観光客を誘致するために、日本側はさまざまな政策を打ち出した。2013 年、「医療滞在ビザ」が開設され、観光ビジネスの重要な一環として日本で掲げられた。この中で人間ドックやガン治療を含め、美容ツアーや整形といったサービス型の分野も加えた規定ができた。

## 2. 先行研究の検討

そこで、美容整形を取り巻く先行研究を踏まえ、本研究はインターネット上の整形情報の影響力を測定することから、中国人の行動とインターネットの情報の関係性を明らかにすることとした。まず、学術上で医療整形はタブーとしてみなされていた。傷の無い身体にメスを入れることが医療行為として認められないという考えが定着したからである (谷本 2008)。しかし、第二次世界大戦以後、美容医療産業が西洋から東アジアに侵入し、整形外科の一分野として、商業化していき、個人主義や自由主義の思想風潮が、東洋人の伝統思想に大きな衝撃を与えた。そのほか、マスメディアが提示した理想的な身体イメージに近づけようとする行為の視点 (川添 2011) や、女性が主体性を生かして理想的な体を構築する行為としてみなされたジェンダー学上の論点 (河野 1999) など、美容整形にまつわる議論は多岐にわたっている。

## 3. 研究方法と結果

第一に、日本の整形現場に現地調査を実施することである。その結果、整形産業がカジュアル化していることが明らかになった。料金の低下 (数万円で済むプチ整形) や整形技術の発展 (ヒアルロン酸やボトックスの量産化) がカジュアル化を推進する原因だと考えられた。

第二に、中国人の来日整形行為の特徴を解明するために、インタビュー調査を行った。

施術者3名と手術同伴者（通訳担当の仲介業者）1名に日本整形に関する経験談や個人の心境を尋ねた。その結果、まず、日本整形への「憧れ」が訪日中国人の整形行為を実施する原因であることがわかった。次に、日本で整形行為を行っているプロセスで、社会関係資本を利用したがるという中国人の国民性が観察された。また、日本で整形するためにはインターネットから情報を収集することが不可欠な一部分であるが、情報の信憑性に不安を感じる中国人が、同伴者や医療通訳者に協力を求めることを明確にできた。さらに、来日前、日本の整形現場に関するリアルな情報をほとんど知らない状態であった。

第三に、中国のインターネットにおける日本の美容整形を取り巻く情報の特徴を導き出すために、代表的なソーシャルメディア（「Weibo」、「Zhihu」と「So Young」）からデータを収集し、テキストマイニングの調査方法で入手した情報を分析した。その結果、日本整形が「日本医療」、「化粧品」などの関連語とあわせて議論されることがわかった。そして、インターネットで流れている経験者の体験談が注目されやすく、一般人ユーザーに議論される傾向が高いことも解明できた。また、中国のインターネットでは、日本整形の宣伝や広告の情報が数多く存在し、繰り返して出現する特徴がある一方、日本整形のリアルな情報はまだ少ないことも推定できた。

#### 4. 結論と今後の展望

以上の分析から、中国のインターネットで流行している日本の整形に関する多くの情報は、商業上の宣伝や成功事例に関わるものであるため、それを閲覧した読者にとって、彼らの（潜在的な）整形願望を促進させる影響力があると考えられる。また、訪日整形行為を実施する人数の増加は、中国のインターネットでの情報発信の増加と関わっていることが推定できる。

本研究の課題は、整形行為に伴うリスク情報に関する分析が足りない点にある。プチ整形の発展による低価格はより多くの人に整形の門戸を開け、繰り返しの施術は人々に依存させるリスクをもたらす可能性もある。今後は、ニッチな分野にある来日整形行為が安全に行われるよう、健全な情報を双方に流すことができる実証的な研究を進行していきたい。

#### 参考文献

- ISAPA(International Society of Aesthetic Plastic Surgery), 2018, 「INTERNATIONAL SURVEY ON AESTHETIC/COSMETIC PROCEDURES performed in2018」, (2020年6月20日取得, <https://www.isaps.org/wp-content/uploads/2019/12/ISAPS-Global-Survey-Results-2018-new.pdf>).
- 河野貴代美編, 1999, 『女性のからだと心理』新水社.
- 川添裕子, 2011, 「流動的で相互作用的な身体と自己——日本の美容整形の事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』169: 29-54.
- 谷本奈穂, 2008, 『プラスチックな身体 美容整形と化粧の社会学』新躍社.